

凄風利似刀

凄風 利きこと 刀に似たり

暝催雞翅斂

暝催して雞翅斂まり

寒束樹枝高

寒束ねて樹枝高し

縮水濃和酒

水を縮めて和酒を濃かにし

加絺厚絮袍

絺わたを加へて絮袍を厚うす

可憐冬計畢

憐むべし冬計畢り

緩卧醉陶陶

緩かに臥し酔うて陶陶たり

(傍線 筆者)

更にこの「風氣」が「愁いを破る」の「破」の表現には、和歌の縁語と掛詞に似た用法が含まれており、愁いを「風」との関連で「吹き破る」意で用いたのと、愁いを「消す」の意を重ねあわせられている。

### 「八句目「此秋獨作我身秋」の表現について」

この句の表現には『白氏文集』の次の句の投影があることが既に川口久雄氏（注五）や小島憲之氏（注四）により指摘されている。

『白氏文集』（「鶯子樓 三首 序」）